



# 岡山・香川へ懇親の旅

2019年4月、会員の有志27人は「晴れの国・岡山」へ3日間の旅を楽しんだ。メインのホスト役は会員である松林寺高橋宗哲（良洋）さん。松林寺は臨済宗東福寺派の御寺。旅行会のお酒は、お堂にておいしいお弁当とお酒をいただいた上、宗哲師の法話と奥様はじめ近隣の皆様やさしい接待をいただいた。

ゆったりとしたテラススペースの名ガイドはさすが岡山といわれる程のかた。窓外の説明をうっとり聞きながら、備中の街を走る。昨年の倉敷での大雨被害の記憶が頭をよぎる。桃太郎伝説の舞台とあって、吉備津神社は豪華。ながい回廊を歩みながら、あらためて桃太郎の話と童謡が頭にうかんだ。

夜の懇親会は歌、お話、ゲームと昼の疲れを忘れさせる楽しさ。地元岡山の料理やお酒をいただく。今回の旅行会にあたり一生懸命練習をかさねた高橋さんの唄「岡山城」は参加者の胸をうった。翌日は芸術の島「直島」へ。ここは香川県。わずかな所要時間だが船で渡れば気分一新の「ベネッセの島」。出版市場に後発として創業したベネッセ・コーポレーションは顧客満足度の徹底的な追求をとおして発展したなかで、いまこの島の「芸術」を運営する。

石、砂、自然など島の自然に溶け込んだ展示や著名な絵画の展示により私達の目を魅了させてくれた。適度に足を使い3カ所の博物館や海岸にまで広がる芸術作品



松林寺にて参加者一同、中央右の法衣姿が高橋宗哲さん

も十分に堪能。岡山への帰途には王子が岳からの瀬戸内海眺望を楽しみ、自然の雄大さ、美しさをじっくり感じたひとときがあった。

もう最終日。県博物館で松林寺の寺宝（開山の肖像画・東の重要文化財）を鑑賞。後楽園は整った庭園。ボランティアガイドさんの細かい説明を聞きながら頭に「先愛明」がよぎる。つい「先愛明」がよぎる。つい「先愛明」がよぎる。

また、東京オリンピックの開催中は、駒沢競技場などの警備に従事しました。国立競技場の開会式の際は、オランダのヘーシンク選手を近くで見ましたが、とても大きいので驚きました。

その後、警察署、機動隊、本部、警察庁、方面本部、警察大学校等20の所属で勤務しました。

○江戸町奉行所について  
警視庁の前身は、江戸時代の江戸町奉行所です。北町奉行所と南町奉行所の二つの奉行所があり、一月交代で市民生活の安全を守っていました。体制は、南北奉行所の合計2500人で、多方面の事実を処理していました。また、町奉行所のほかに、老中所管の火付盗賊改役があり、放火、盗賊、博打について捜査、逮捕、裁判の権限を持っていました。

○三菱重工業ビル爆破事件  
昭和49年8月30日昼過ぎ、東京丸の内にある三菱重工本社ビルの正面玄関前に仕掛けられていた時限爆弾が爆発、近隣のビルや通行人などを巻き込み、8人が死亡、385人が重軽傷を負う爆弾事件が発生しました。犯行に使用されたのは、ペール缶2個に混合爆薬約55キロを詰め時限爆弾でした。

○西南の役（西南戦争）と武術の振興  
明治10年2月、西南の役が勃発、警視庁は、約9500人の警官を九州に派遣、反乱軍の鎮圧に多大な貢献をしました。中でも、田原坂の戦いでは、警視隊の中から剣術に優れた100余人を選抜した「警視隊抜刀隊」が編成され、日本刀を抜いて戦い活躍しました。

おける武術家採用のきっかけが作られ、壊滅寸前にあった日本武道を蘇生させる原動力となったといわれています。警視庁は明治12年に剣術世話を採用し、同16年には柔術世話を採用するなどに、組織として武術の振興に力を入れ、現代まで続いています。

## 江戸町奉行所から近代警察へ

警視庁は、明治7年1月15日に創設され、今年で145年を迎えました。創設時は、6000人の職員でしたが、現在は約5万人の体制になり、本部組織が9つの部、4つの対策本部、警察学校、10の方面本部と102の警察署により構成されています。第一線の組織として、都内全域



を管轄する警察署には、8つの課があります。交番、駐在所は、1081か所あり、私の経歴は、プロフィールのとおりです。補足しますと、元首相、吉田茂の出身地である高知県宿毛市に生まれ育ちました。中学、高校時代は柔道一筋で、2段を取得して昭和37年4月に警視庁に入りました。約1年間の警察学校生活を送り、勉学のほかに、柔道、剣道、逮捕術

24時間体制であらゆる警察事象に対応し、都民生活の安全と治安維持に努めています。

等武道の訓練時間も多く、厳しく鍛えられました。昭和38年の春、港区にある三田警察署に配置となり、小山町交番、網町交番、田町駅東口交番に勤務しました。思いに残っているのは東口交番の勤務です。芝浦港で働く沖仲仕が安い酒を飲み深夜まで騒いで暴れたり、喧嘩をする、これらの事案に対応する毎日でしたが、体力には自信がありましたので、積極的に対応できたように思います。

柔道では、警察署対抗の柔道大会の選手として出場しましたが、2回も負ける大失敗をしました。

昭和39年、目黒区にある第3機動隊で勤務するようになり、武道小隊員として2年間、柔道を集中的に練習することが出来ました。

また、東京オリンピックの開催中は、駒沢競技場などの警備に従事しました。国立競技場の開会式の際は、オランダのヘーシンク選手を近くで見ましたが、とても大きいので驚きました。

その後、警察署、機動隊、本部、警察庁、方面本部、警察大学校等20の所属で勤務しました。

○江戸町奉行所について  
警視庁の前身は、江戸時代の江戸町奉行所です。北町奉行所と南町奉行所の二つの奉行所があり、一月交代で市民生活の安全を守っていました。体制は、南北奉行所の合計2500人で、多方面の事実を処理していました。また、町奉行所のほかに、老中所管の火付盗賊改役があり、放火、盗賊、博打について捜査、逮捕、裁判の権限を持っていました。

○三菱重工業ビル爆破事件  
昭和49年8月30日昼過ぎ、東京丸の内にある三菱重工本社ビルの正面玄関前に仕掛けられていた時限爆弾が爆発、近隣のビルや通行人などを巻き込み、8人が死亡、385人が重軽傷を負う爆弾事件が発生しました。犯行に使用されたのは、ペール缶2個に混合爆薬約55キロを詰め時限爆弾でした。

○西南の役（西南戦争）と武術の振興  
明治10年2月、西南の役が勃発、警視庁は、約9500人の警官を九州に派遣、反乱軍の鎮圧に多大な貢献をしました。中でも、田原坂の戦いでは、警視隊の中から剣術に優れた100余人を選抜した「警視隊抜刀隊」が編成され、日本刀を抜いて戦い活躍しました。

## 「警視庁ものがたり」清家春夫さんの講演要旨

また、東京オリンピックの開催中は、駒沢競技場などの警備に従事しました。国立競技場の開会式の際は、オランダのヘーシンク選手を近くで見ましたが、とても大きいので驚きました。

その後、警察署、機動隊、本部、警察庁、方面本部、警察大学校等20の所属で勤務しました。

○江戸町奉行所について  
警視庁の前身は、江戸時代の江戸町奉行所です。北町奉行所と南町奉行所の二つの奉行所があり、一月交代で市民生活の安全を守っていました。体制は、南北奉行所の合計2500人で、多方面の事実を処理していました。また、町奉行所のほかに、老中所管の火付盗賊改役があり、放火、盗賊、博打について捜査、逮捕、裁判の権限を持っていました。

○三菱重工業ビル爆破事件  
昭和49年8月30日昼過ぎ、東京丸の内にある三菱重工本社ビルの正面玄関前に仕掛けられていた時限爆弾が爆発、近隣のビルや通行人などを巻き込み、8人が死亡、385人が重軽傷を負う爆弾事件が発生しました。犯行に使用されたのは、ペール缶2個に混合爆薬約55キロを詰め時限爆弾でした。

○西南の役（西南戦争）と武術の振興  
明治10年2月、西南の役が勃発、警視庁は、約9500人の警官を九州に派遣、反乱軍の鎮圧に多大な貢献をしました。中でも、田原坂の戦いでは、警視隊の中から剣術に優れた100余人を選抜した「警視隊抜刀隊」が編成され、日本刀を抜いて戦い活躍しました。

## 通用口（第一回）

### 会員・沢口みつを

「サブロー」というのは、その蝸牛が自分で付けた名前である。「オレにだつて主張はあるんだ。姿形は似ていても、ほかの蝸牛とオレは違うんだ」そう思っつけて付けたのだが、ではなぜ「イチロウ」でも「ジロウ」でもなく「サブロー」なのか。そう聞かれると答えようがない。どう見ても自分はヒトの先に立つような存在ではない。一番目もいえない。要は自信がないのだ。だから三番目くらいであり目立たないで生きていくのが一番いいのだ。

彼はそんな自己分析をしてみて、「サブロー」というのは自分に相応しい名前なのだと思えて満足していた。でもそれをヒトにいうのは憚らぬ。自分をそんなに卑下しているのかと思われたくない。かといって「サブロー」が最も相応しいのだと公に出来る理由もなかなか見つかからない。できることならそういう質問が出る前に話題を変えておこなうにはならぬ。しかし、そんなことを考えていると気がイライラしてくる。そういうことに悩んでいる自分にも嫌気がさしてくる。だからなるべく考えないようにしているのだが、無念無想を装っている間に、気が付くと「サブロー」が、実はサブローは素晴らしいものを見つけたのである。

サブローの棲みかには老夫婦二人の住まいの庭先だが、実はその南側の板塀の向こう側に古びた木造アパートがある。一階も二階も四世帯ずつあるが、二階の西側に小さな赤ん坊を抱えた女が住んでいる。今どきの若い母親にありがちな無精者というか、あまりお行儀の良い方ではない。それで賞味期限切れになった粉チーズが缶の中に半分ほど残っているのを庇の下の分別ゴミ箱に捨てたのだ。ところがゴミを入れ過ぎていて蓋が閉まり切っていないから、ゴミ

ミを出す日にポリ袋ごと取り出したときに缶が外に飛び出た。それが外に落ちた。それが建物とゴミ箱の隙間に落ち込んでいたのを、たまたま餌を漁りに遠征したサブローが見つけたというわけだ。

粉チーズにはカルシウムがたっぷり入っているうえに我ら蝸牛にとつてはとても食しやすい形状である。それを発見したときサブローは取りあえずたたく食ったが、一度に食べ切れないので、何とか自分だけのものとして確保しておく手はないかと思つた。でもどうすればいいのか、才覚がなかった。

対策が思いつかないままサブローは自分の棲みかへ戻ろうとした。その道すがらケンジに出会った。嫌な奴がらいたと思つて道を変えようとしたのだが、ケンジは機敏な動きで行く手を塞いでしまった。サブローは進退窮まって立ち止まった。

（次号に続く）

# 初の都心開催 第28回ホームカミングデー

第28回中央大学「ホームカミングデー」が9月29日(日曜日)後楽園キャンパスで行われました。今年も理工学部創立70周年・法学部都心移転を祝い、例年の多摩キャンパスではなく、初めて後楽園キャンパスで開催されました。

12時少し前、白門43会の職を持参して5号館の開会式場に入りました。まだ担当の方だけが数名いるだけで、我々が一番乗りでした。13時開始の20分前はまだまだ会場の半分ほどでしたが、10分前を過ぎると各支部の皆さん中心に一気に来場者が増え、500人入る階段式教室はほぼ満席になりました。43会の役員も大勢集まりました。

会の冒頭、大村理事長が挨拶されました。初めて後楽園キャンパスで行われる卒業生の集いでは、ビッグ座談会をはじめ様々な企画を楽しんでほしいこと、中長期計画(10年)4年目の今年に至る進捗状況などを話されました。この後、中大応援団の熱い応援演技をバックに、参加者全員で元気に校歌を斉唱しました。



ホームカミングデーがスタートしました。(右の写真)

## 年会費制度の改訂について

白門43会では最近の財務状況の推移から、今後の安定的な活発な活動をめざし、次のように年会費を改訂することにいたしました。この内容を今年7月の定時総会に議案として上程し、全員の賛成にて承認をいただきました。詳細についてはこの会報に同梱いたしますが、その骨格を、ご説明いたします。

- ① 「終身会費」は廃止する。
- ② 新たな年会費として年間3,000円を納入する。
- ③ 3年分までの一括払いが可能
- ④ 支払期日 毎年当該年度の4月1日～7月31日の間とする。
- ⑤ 定時総会の日に会場で現金支払
- ⑥ ゆうちょ口座から振替(手数料無料)
- ⑦ 郵便局、銀行などから振込
- ⑧ 年会費を2年間未納の場合退会したものとみなす。
- ⑨ 施行は2020年4月1日から。

開会式に引き続きおこなわれた、甲斐中辰夫元最高裁判所判事他が出席する「ビッグ座談会」を聴く43会員が多い中で、清水会長・小塚副会長・矢崎と三人はマイクを握り、若荷谷の法学部クロバスの予定地の見学に行きました。また更地ですが、地下鉄丸の内線若荷谷駅から徒歩1分、近くには有名大学が多くあり(隣は跡見学園)、最高の立地です。説明担当の方の話では2023年新キャンパス完成移転。7,200㎡の敷地に緑地を多く設け、建物は延べ床面積33,000㎡、地上8階・地下2階で郵便局や一般の方も利用できるレストランなども入るそうです。ここは都の

所有地で、40年(50年以下)の借地契約を結んでいるとのことでした。

私はこの後大学に戻り、15時からのスポーツ企画(アスリート紹介)に参加しました。まず、酒井総長が中長期計画の四つの柱「スポーツ振興」についての話をされました。

そして、司会の曾根純恵アナウンサーが6名のアスリートのプロフィールを紹介した後、各自が体験談を発表しました。千田健太氏(2012年ロンドンオリンピック・フエジシング銀)をはじめ、アスリートの皆さんが苦勞を重ねて壁を乗り越えて行く話が印象的でした。

16時過ぎにはいくつかの他の会場での見学を終えた43

## 白門43会役員

任期 2019年4月～2021年3月

会長	清水 正	副会長	浅葉美枝子
幹事	小塚正人	幹事	伊藤正敏
幹事	富田秀雄	幹事	後澤正昭
幹事	矢崎 勝	幹事	田中宏司
幹事	立岩正義	幹事	山本剛嗣
幹事	安藤 馨	幹事	歌代雄七
幹事	岡田孝子	幹事	金井快夫
幹事	倉田隆次	幹事	黒須 勲
幹事	佐藤忠治	幹事	高橋延芳
幹事	鈴木征夫	幹事	清水利夫
幹事	中里圭子	幹事	館野勝彦
幹事	長谷川裕子	幹事	中村喜子
幹事	星野則昭	幹事	原田六生
幹事	松浦 靖	幹事	町田與曾彦
幹事	緑川 勉	幹事	光常武二
幹事	吉本常子	幹事	峯村 剛
幹事	吉田信男	幹事	山田雅道
幹事	石橋忠雄(青森県)	幹事	井出勝正(新潟県)
幹事	伊藤 正(奈良県)	幹事	小田治一(山形県)
幹事	金山正一(宮城県)	幹事	北村徹雄(石川県)
幹事	日下 彰(福岡県)	幹事	高田敏之(広島県)
幹事	高橋 孝(兵庫県)	幹事	西村輝雄(岡山県)
幹事	龍山俊暁(広島県)	幹事	高橋良洋(大阪府)
幹事	坂東 勲(富山県)	幹事	平尾豊行(広島県)
幹事	山添英明(鳥取県)	幹事	
幹事	長田康道	幹事	芝木雅基

2018年度 白門43会収支決算書 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)			
(収入の部)			
科目	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	1,072,434	1,072,434	0
会費収入	4,000	22,000	18,000
記念総会懇親会収入	800,000	854,000	54,000
「新春の集い」収入	630,000	629,000	-1,000
会報発行収入	0	50,000	50,000
その他の収入	120,000	115,676	-4,324
合計	2,626,434	2,743,110	116,676
(支出の部)			
科目	予算額	決算額	差異
記念総会費	854,000	958,706	104,706
会報発行費	200,000	225,916	25,916
「新春の集い」費	580,000	580,508	508
ホームページ費	0	133,796	133,796
その他の支出	80,000	84,712	4,712
次年度繰越金	912,434	759,472	-152,962
合計	2,626,434	2,743,110	116,676

2019年度 白門43会収支予算書 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)			
(収入の部)			
科目	予算額	摘要	
前年度繰越金	759,472		
会費収入	10,000	年会費延べ5人分	
総会懇親会収入	780,000	参加費720千円(9千円/人×80人)、祝い金40千円、講演料補助金20千円	
「新春の集い」収入	630,000	参加費630千円(9千円/人×70人)	
その他の収入	108,000	支部活動支援補助金100千円、2泊3日旅行差金繰入8千円	
合計	2,287,472		
(支出の部)			
科目	予算額	摘要	
総会費	775,000	飲食費等会場費656千円、講演・演奏謝礼60千円、案内状関係費ほか59千円	
「新春の集い」費	604,000	飲食費504千円、講師謝礼30千円、案内状関係費ほか70千円	
会報発行費	203,000	制作費143千円、発送費60千円	
ホームページ費	60,000	維持管理費5千円/月×12月	
その他の支出	80,000	祝い金30千円、年次支部協議会費10千円等前年度実績並み	
予備費	565,472		
合計	2,287,472		

**上野公園内不忍池畔**  
ご婚礼・ご宴会・レストラン

# 上野精養軒

110-8715 東京都台東区上野公園 4-58 <https://www.seiyoken.co.jp/>

**東天紅**  
TOH TEN KOH

各種ご宴会 ご予約承ります

中国料理 東天紅上野店 TEL.03(3828)5111  
<https://www.totenko.co.jp>

\*氏名は五十音順 \*右線は新任の方

書評 「裁判の書・解題」

田中康郎さん著 日本評論社発行

標題の書は司法官・三宅正太郎氏(1887-1949)が訴訟の実際を教える書として1942年に上梓したものに43会員の田中さんが「解題」をつけて今回復刻発刊されたものである。副題にあるように三宅氏は「激動の時代を生きた」司法官であり、大阪控訴院長などをつとめあげ、この書は「裁判をする心」あるいは「裁判官の魂」を強く訴えた氏の名著であり、時代の背景は違いますが今でもその精神は曲がることなく受け継がれてゆくべき内容である。

神は正義の体現」として強く主張している。よくこの戦中の時代にこのような書を書かれたかと思心するものである。利害があるわけもなく本心に司法のありかたを心をもつて書かれたものである。裁判のためのこのような指針書があったとは今まで知らなかった。この書のおおきな特色をあげれば、ひとつは封建時代のたとえが数多くとり入れられ、その精神は今の時代にも生かされてゆくべきものというところ。京都所司代(板倉勝重)、奉行本多重次、酒井忠勝などあらゆる立場のものを事例が詳しく述べられている。事例と教訓が多く、読んで面白い本でもある。歌舞伎が観客の興味をひかぬ最大の原因も記されているが、これは見事に的をえたコメントは気持ちが良い。これは裁判についても同じことが言えるところも述べている。また「上から受けた恩を、下に向って返す」ことも経験から生まれた良き教訓である。さらにこの特色は被告人に対する「心」を大切にすること。被告人の人格を尊重しなければならない、そして判決が裁判の完結ではなく、服役した被告人に対する裁判の後の心遣いが大切であるということも強く主張している。今でこそ人の尊重が叫ばれているがこの時代に「被告人」を大切に扱うべきという意見を述べるのは勇気がいることであろう。

今回田中さんはこの大著「裁判の書」の解題を書かれた田中さんにとってもこれをご自身へのテキストとして書き加えて氏(三宅氏)の志「裁判する心」を再び世に広めたいという田中さんの強い思いが感じられる書である。いかめしい標題の本書であるが読む価値の本である。

田中さんはかつて札幌高裁の長官を務められた。三宅氏もまた35年に同じ札幌控訴院長に任命された。そしてその年には中大の大先輩林頼三郎氏が大審院長となられた。これも縁であろうか。(清水 正)

自分を見つめて

鹽野 恵子

会員の洋画家・鹽野恵子さんはこの6月に東京・中央区京橋の「ギャラリークボタ」で個展を開催、43会員を始め多くの来場者で賑わった。作品のひとつ「やる気スイッチ」を紹介する。またこの会報にメッセージを寄せられたので紹介します。

2019年6月 1年おき第8回目の個展は、グループ展とびつたり重なっていました。個展会場の51メートルの壁を埋めるにはどうしても45点は必要で、グループ展に回す作品の余裕はありません。然しグループ展は、欠ければメンバーに迷惑をかけることになる。えいとはばかりに思い切つてグループ展には鍋釜のスクッチを展示。題名「主婦してます」は思いがけず大好評になりました。

力強い筆致で描かれた、静かな目や勝ち気な表情、自信に満ち溢れた佇まいの女性達の作品が壁面に飾られていた。色とりどりの着衣や背景が目に見え、実に賑やかである。同じモデルを別の解釈で描いた作品もあつたが、その多面性は画家自身がつつ懐の深さや、情熱の発露によるものだと思う。最近楽しくなってきたという風景画も拝見したが、描く対象が変わつても「私にしか出来ない表現」という画家の強い自負が画面から滲み出てくるようであった。会場全体が1つの舞台のような一体感を醸し、まるで群像劇を鑑賞しているような臨場感に満ちていた。

少し褒め過ぎのきらいはあるのですが、本人以上に的確に分析して下さつていて、会場の熱気が伝わってくるように思いました。ただ初期の頃のアルバムを見てみますと、本人自身が「よくこれだけ力強い作品が描けないなあ。今ではとても描けない」と愕然とするような作品が多く見られます。教養が邪魔していない「若さ」です。体力無し、気力無しの75歳は、これから先どのように進んで行けばよいのでしょうか。腕力を物言わせてがむしゃらに突き進んできた今迄とは違つて、省エネで、しかも力強い作品を作るべく「歩ずつ進んで行きたい」と思っています。

見てもみても、本人自身が「よくこれだけ力強い作品が描けないなあ。今ではとても描けない」と愕然とするような作品が多く見られます。教養が邪魔していない「若さ」です。体力無し、気力無しの75歳は、これから先どのように進んで行けばよいのでしょうか。腕力を物言わせてがむしゃらに突き進んできた今迄とは違つて、省エネで、しかも力強い作品を作るべく「歩ずつ進んで行きたい」と思っています。

町田さん画歴55年、モナコ芸術祭に入賞

会員の町田與曾彦さんは22歳で埼玉県の美術展に入賞、以来洋画を描き続け、この11月に「画歴55年記念第28回個展」を銀座・ギャラリームサシで風景を中心に花の作品も含め約40点を展示、多くの43会員が鑑賞に訪れた。

町田さんは第55回の二科展に初入選、以降46回に亘り入選、第90回では作品「海の追憶」が特選として入賞している。9月には第104回の二科展で「ストラスプール」を出品、これも期間中「神戸ハーバーランドの油絵」を出品、めでたく「グランドアベニュー賞」を受賞、その足でモナコ・フランスを周遊した。訪問先で美術館、博物館も見学し、欧州の芸術文化を堪能、印象に残り、再認識したのはやっぱり宗教の

ことし2月の「第13回モナコ日本芸術祭2019」に「神戸ハーバーランドの油絵」を出品、めでたく「グランドアベニュー賞」を受賞、その足でモナコ・フランスを周遊した。訪問先で美術館、博物館も見学し、欧州の芸術文化を堪能、印象に残り、再認識したのはやっぱり宗教の

町田與曾彦さんのホームページ <http://www.art-pn.co.jp/Machida>

町田與曾彦さんのホームページ <http://www.art-pn.co.jp/Machida>

書評

「石田梅岩に学ぶ石門心学の経営」

田中宏司さんほか編著 (株)同友館 発行

CSRでおなじみの田中宏司さんが15名の執筆者をまとめ、そのエッセンスをまとめたものである。このなかで田中さんは「エビログ」を執筆している。石田梅岩(1685-1744)は江戸時代、京都亀岡の百姓の家に育ち、42歳の歳まで商家で奉公として勤め、奉公の生活のなかで勤勉、正直などの重要性をさとり、

自ら率先して実践していった。その後生涯で唯一の師とされた小栗了雲との出会いにより、学門に専念する。教育のなかでは講釈、実践、問答、瞑想工夫の四つの方法で行なうた。

その後商いの倫理を表す明言「先も立ち、我も立つ」一双方がうまくいくことが商人の志す道との名言を残

し、現代に至るまでの経営者、企業に少なからぬ影響を与えている。まず言えることはこの本は江戸時代の経済史といえよう。江戸時代の経済史といえよう。「土農工商」の時代、当時最下位と言われていた商人は「私欲から利益をむさぼる商人」として賤しまれていた。その立ち位置の中で梅岩は儒教、仏教、神道に基づいた道

徳をもとに勤勉、正直、儉約の3つの主張を著書「都鄙問答」にあらわし自分自身の体験をもとにした考えを講義していた(元文4年54歳)。このなかで次第に武士の力が弱まり、町人の力が強くなっている。

「や」京セラの稲盛和夫に大きな教訓を与え、「他を利するはビジネスの原点」の考えを与えている。

最終章の石門心学に基づいた企業経営の7か条は洪沢栄一「論語と算盤」にも通じるこの本のエッセンスである。参考文献が豊富なこの本の特色である。300年近く後の現代においても経営への良き指針書となるだろう。今の時代に経営倫理実践



作品「ストラスプール(仏)」第104回 二科展

編集後記

白門43会報第27号をお届けします。ホームページが充実し、スマホでも簡単に見ることができるようになりました。HPはスピード性、デザイン性で大変優れています。またこの会報は記録性に価値があります。それぞれの長所をいかし、広報活動をやってまいります。(清水 正)

会員訃報

以下の会員が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

青木正弘さん

理工学部電気工学科出身 三重県久居市在住 2019年4月7日逝去

山本武雄さん

理工学部土木工学科出身 横浜市保土ヶ谷区在住 2019年5月30日逝去

白門43会報はますます活発な活動を続けています。いよいよ来る年は二〇二〇年、21世紀も5分の1を経過、当会も創立25周年をむかえ、区切りの良い年となります。全国の会員のみなさまぜひ良い年をお迎えください。